

Japanese
Led By The Spirit
50-0715

御霊によって導かれる
ミネアポリス ミネソタ州 アメリカ合衆国
1950年7月15日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され
る。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

御霊によって導かれる

1 ありがとうございます、リンゼイ兄弟。皆さん、こんばんは。

お聞き苦しいところがありましたら、どうかお許してください。聞こえていますか?—はい、それで結構です。神はきっと、私たちのためにすべてを整えてくださいます。私たちは、ただ正しいことをしようとしているだけです。

さて、明日—あ、明日の午後2時に集会があります。リンゼイ兄弟からそう聞いています。明日の午後2時です。

それなら、どなたの教会の礼拝とも重ならないでしょう。皆さんそれぞれの教会の礼拝を終えてから、来ていただけます。

ですから、どうかそれを覚えておいてください。

それから、明日の夜はいつもどおりの集会—説教ではなく、癒しの集会です。

明日の午後は説教の集会になります。

もし可能でしたら、ぜひお越しください。

皆さんにお会いできることを、心からうれしく思います。

2 ここにいらっしゃる方で、クリスチャンの方はどれくらいおられますか。手を挙げてみてください。

ああ、素晴らしいですね。実に、九十九パーセントの方がクリスチャンです。

それを知って、私は本当にうれしく思います。この会衆の大半の方々が、すでに救われ、イエス様を心から愛しておられる—それが分かって、心から感謝しています。

3 ではまず、少しだけ御言葉を読みたいと思います。

私の言葉は過ぎ去りますが、神の言葉は決して過ぎ去ることがありません。

マタイによる福音書 9章27節からをお読みします。聖書に印をつける方は、どうぞ。

そして、もし主のみこころであれば、明日の午後にこの主題で語りたいたいと思っています。——どうなるかは分かりませんが、主が許されるなら、

「すべてのことを私に話して下さった方を見に来なさい」です。

それでは、マタイの福音書9章27節からお読みします。

イエスがそこを去られると、二人の盲人があとに従って来て、

「ダビデの子よ、私たちがあわれんでください」と叫んだ。

イエスが家に入られると、盲人たちはみもとに来た。

イエスは彼らに言われた。

「私にこれができるかと信じるか。」

彼らは言った。「はい、主よ。」

そこでイエスは彼らの目に触れて言われた。

「あなたがたの信仰のとおりになるように。」

すると彼らの目は開かれた。

それからイエスは彼らを厳しく戒めて、

「だれにも知られないようにしなさい」と言われた。

ところが彼らは、出て行って、その地方一帯にイエスのことを言い広めた。

彼らが出て行くと、悪霊につかれて口のきけない人が、イエスのもとに連れて来られた。

悪霊が追い出されると、口のきけなかった人は物を言うようになった。

(この人を縛っていたのが何であったか、お気づきでしょうか。悪霊でした。

現代の科学はそれに同意しないかもしれませんが、私たちクリスチャンは聖書の語ることを信じます。)

群衆は驚いて言った。

「こんなことは、イスラエルで今まで一度も見ることがない。」

聖霊が御言葉を、しるしと不思議をもって確認してください。

神の御子、イエスの御名によって。

さあ、会衆の皆さん。

よく聞いてください。

注意しなさい……。

もし違うなら、手を上げなさい……。

……

今、二人の人が立ち上がるはずです。

イエス・キリストが、あなたがたを癒されました。

さあ、

「主を賛美します」と言いましょう。

主があなたと共におられると信じますか？

主はここにおられます。

さあ、みんな立ち上がって、

主を賛美しましょう。

今すぐ、主を賛美しましょう。

あなたは信じますか？

主を受け入れますか？

今、受け入れなさい。

姉妹、

今、心から主を信じますか？

今すぐ、受け入れなさい。

さあ、

主イエスに向かって、手を上げましょう。

父なる神よ。

今すぐ、この民の心の中に入ってください。

どうか今、

しかしパリサイ人たちは言った。

「彼は悪霊どものかしらによって、悪霊を追い出しているのだ。」

それからイエスは、すべての町や村を巡り歩き、

彼らの会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、

人々の中のあらゆる病気、あらゆる患いを癒された。

そして、ヘブル人への手紙には、こう書かれています。

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることのない方です。」

主は変わることがありません。このお方は神です。

4 さて、ここで申し上げたいのは――

神とクリスチャンとの交わり、その結びつきの中で、最もすばらしいことの一つです。

それは、神の子である者は、神の御霊によって導かれる、ということです。

(後ろの方、今は聞こえていますか？ 大丈夫でしょうか。)

聞こえていましたら、手を挙げてみてください。――はい、ありがとうございます。

できるだけこのマイクに近づいて立っています。もしかすると、少し音が響くかもしれませんが。)

さて、私がクリスチャン生活の中で見いだした最大の祝福は、

聖霊に導かれ、導いていただくことです。

そのみわざは、まことに驚くべきものです。

ここにいて、これまでに御霊に導かれたことのある方はどれくらいおられますか。手を挙げてみてください。

――ああ、なんとすばらしいことでしょう。

神の御霊に導かれている……。

祭壇へと導くことのできるお方は、聖霊以外にはおられません。

そして、今夜ここへあなたを連れて来られたのも、聖霊でなければあり得ません。

そうではありませんか。

神は、不思議な道を通して働かれます。

その驚くべきみわざを成し遂げるために。

5 幾度となく、その導きの中で……

[テープの一部欠落]

私は幼い頃から、ずっとそうでした。

もし一週間後の日曜日までここにいられるなら、その日の午後の集会で、私の人生の証しをお話したいと思っています。

これまでの道のりに、どれほどの涙と血があったか——それを知っていただくためです。

外から見ると、すべてがバラの花道のように思えるかもしれませんが、友よ、決してそうではありません。

さて、私が人々の病気や状態について何かを語ることは、ただ一つの場合だけです。

それは、はっきりと聖霊に導かれている時だけです。

私は、自分自身から何かを言ってはなりません。もし自分の思いで語れば、それは必ず間違いになります。

大勢の人がいると、時にそれが私を混乱させることもあります。

一番よいのは、その人と一対一で向き合い、個人的に話す時です。

直接その人と接し、霊に触れることができるからです。

しかし、このように混ざり合った大きな会衆の中では、

それが何であるのか、何が起きているのかを感じ取るのが、どうしても難

今夜、あなたを助けることができるのは、ただ信仰だけです。

それは正しいですね？

それなら、なぜ神の御言葉を信じないのですか？

なぜ、信じないのですか？

あなたは、これを信じますか？

この識別、

この御霊の働き——

それが創造の神ご自身であることを、信じますか？

あなたは、私を神のしもべとして受け入れますか？

私を神の預言者として信じますか？

信じますか？

それなら、

同じように、私に従いますか？

それならば——

神の御子、イエス・キリストの御名によって命じます。

そこから起き上がり、家に帰りなさい。

そして、癒されなさい。

それです。

さあ、起き上がりなさい。

赤いコートを着て、そこに座っているご婦人、

あなたも癌で苦しんでいますね？

そうでしょう。

アーメン。

41 姉妹、あなたは本当に一生懸命、信じようとしていますね。

そうでしょうか？

さあ、こちらを見てください。

私は、あなたが二度動いたのを見ました。

そこで、あなたに一つ尋ねたいのです。

そこに寝台に横たわっている、あなたに。

あなたは、私とは見知らぬ人ですね。

あなたは、祈祷カードをもらえなかったことで、

とても失望して、そこに横たわっていますね。

カードがどうしても欲しかったのですね。

私はあなたを知りません、姉妹。

しかし今、私はあなたの病が何であるかを知っています。

そして、もし何も起こらなければ、

あなたはあとほんのわずかな日しか生きられないことも知っています。

あなたは癌を患っていますね。

それは正しいですね。

このままでは、生きることはできません。

今、何かが起こらなければならないのです。

そこで、兄弟としてあなたにお願いしたい。

なぜ、そこで死を待つのですか？

医学では、あなたにできることは何もありません。

しい時があります。

だからこそ、霊に対して非常に敏感でなければならないのです。

6 さて、私たちは皆、霊というものが存在することを知っています。

そして霊があるなら、その霊を支配する主が必ずおられるはずで

す。なぜなら、その霊は罪人の性質を変え、クリスチャンへと造り変えるからで

そこには必ず、どこかに主・かしらがおられます。

そして、それが神です。

神は御子をこの地に遣わされ、罪ある肉と同じ姿を取らせ、

私たちが贖われ、再び神のもとへ帰されるために、その御子を死に渡されました。

それは、私たちが再び神の息子、娘となり、

神と共に歩む者となるためです。

エデンの園で失われた、あの断たれたつながり——

アダムの失ったものを、キリストが再び回復されたのです。

7 何度も思うのですが……

もう少し時間があって、腰を据えてお話しできたらと思います。けれども、今は残り8分か10分ほどしかありません。

ですから今日は、ほんの少しだけ、私の心を開いて、皆さんに語りしたいと思います。

クリスチャンの友よ——

おそらく、こうした癒しの集会も、そう長くは続けられなくなるでしょう。

私は、これから先、こういう集会が閉ざされていくように感じています。

私たちの前には、困難な時代が来ています。皆さんも、それを分かっておら

れるでしょう。

だからこそ、今できることは、すべて注ぎ込みたいのです。

そして、ここを去った後、

この世では二度とお会いできない方も多くおられるかもしれません。

もう二度と会うことがないかもしれない。

だからこそ、互いに誠実であり、神の前に誠実でありましょう。

この黄金の機会の間に、神は私たちを取り扱ってくださいます。

本当なら、皆さん一人ひとりと一日かけて座り、話をしたい。

しかし、それはできません。

私は祈りのうちに、神を求める時間を持たなければならないからです。

でも、約束します。

川を渡ったその後で――

あちら側に行ってから、あなたが望むだけ、いくらでも時間を取りましょう。

いのちの海のほとり、常緑の木の下で、

千年でも語り合ひましょう。

なんと素晴らしいことでしょう。

その時、あなたの手を握って、こう言いたい。

「ミネアポリスで一緒に過ごそうとした、あの時のことを覚えていますか。

今は、こんなにも違うでしょう。」

私が家に帰ったら――

そうですね、川を渡る時に、『アメイジング・グレイス』を歌おうと思っています。

私は歌が上手ではありませんが、ずっと歌いたかった歌です。

よろしい。

皆さん、静粛にしてください。

ここにいる誰かが祈っています。

さあ、皆さん、静かに……友よ。

私は思います。

列の中に立っている誰かが、

以前の晩に並ぶための祈りをしていなかった人がいます。

その人と、私はずっと接触しています。

こんばんは、姉妹……。

あなたは、心から主を愛していますか？

……

心から主に信頼できますか？

あなたが今感じているものが、

主ご自身であると信じますか？

よろしい。

それなら、家に帰りなさい。

あなたが抱えていた女性の病は、今、去りました。

あなたは癒されています。

イエス・キリストが、あなたを癒されました。

さあ、

「主を賛美します」と言ひましょう。

それが、信じるということです。

神の祝福がありますように。

主イエス・キリストが、あなたを完全にしてください。

40 それでは、頭を垂れて祈りましょう。

天の父なる神よ。

私たちは、心の底から感謝いたします。

私たちの友であるイエス・キリストの御霊のゆえに。

そのお方は、救い、癒し、完全にしてください方です。

今夜、ここにいてすべての人を祝福してください。

この会衆の一人ひとりが、今すぐあなたを信じ、皆が癒されますように。

聖霊よ、

この会衆の中を今すぐ進み、

病んでいる者、苦しんでいる者をすべて癒してください。

救われていない人々を救い、

あなたを知る知識へと導いてください。

そして、

間もなくあなたが来られることを知らせてください、愛するイエスよ。

あなたは、

御霊に満たされ、血によって洗われ、

あなたに会う備えのできた民を、引き上げるために来られるのです。

どうか、あなたの取るに足りない僕の叫びを聞いてください。

イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

でも、あちらへ行ったら、神は歌わせてくださると信じています。

もし、あなたが先にあちらへ行って、

ある朝、ポーチのあたりから

「アメイジング・グレイス」を歌っている声が聞こえたら、

こう言ってください。

「ブランナム兄弟が家に帰ったんだ」と。

それは、私です。

私はこの古い賛美歌が大好きです。

なぜなら、私を救い、ここまで導いてきたのは、まさに驚くべき恵み——アメイジング・グレイスだからです。

8 多くの場合、御霊の導きの中で起こっていることでも、私はあえて口にしないことがあります。

何も言わず、何も説明しないこともあります。

しかし、幻は絶えず見せられているのです。

私は、それがどのように起こるのかを、皆さんに説明しようとしてきました。

それは、その人たち一人ひとり——

その生き方、これまでにしてきたこと、

そして霊の動きが、そのまま現れてくるのです。

それは、今こうして皆さんを見ているのと同じくらい、はっきりと、現実そのものです。

この集会でそれが実際に働くのを見たあとで、

そのことを疑える方が、ここにおられるとは思いません。

とはいえ、この集会はまだ本来のところまで来ていません。

テントでの集会ということで、音響の問題など、多くの困難がありました。

私たちは互いにまだ慣れておらず、ここも初めての場所です。

それでも——

皆さんが、この働きを本当にすばらしく受け入れてくださっていることに、私は心から感謝しています。

毎晩、私は感じています。

信仰の勢いが、日ごとに、夜ごとに、ますます高まっているのを。

私は信じています。

もし神が許されるなら、

この集会が終わる前に、皆さんが今まで見たこともないような大きな御業が起こるでしょう。

見てください。

それが、今この瞬間にどれほど近づいているかを。

9 ご覧なさい。時には、主が私に示してくださることがあっても、私はそれを口にしないことがあります。

今この瞬間も、ここに立ってこのマイクの前で話している間に、すでに四つか五つのことを見せられました。

しかし私は、それが実際に起こったと分かるまでは、口にしません。

私のマネージャーたちも、よく知っていますが……

——今言っていることは、少し奇妙に聞こえるかもしれませんが、

牧師の方々にとっても、今すぐには理解しにくいことかもしれません。

特に、霊的に深く考える方でなければ、つかみにくいでしょう。

けれども、私はただ正直であることしかできません。

それ以上でも、それ以下でもありません。

10 少し前のことですが、イギリスで集会をしていた時のことです。

もし彼が、

心から信じ、

私が話したこの証しが真実であると信じるなら、

神は、あなたに何が問題なのかを明らかにされるでしょう。

あなたは、それを信じますか？

心から信じると言えますか、そこに立っているあなた？

患者さん、

あなたは心から信じますか？

よろしい。

私はあなたに一度も触れていません。

もし私が、

あなたに何が起こっているのかを告げることができたなら、

それが真実かどうか、あなた自身が分かるでしょう？

そうですね？

それが神から来ているものとして、受け入れますか？

よろしい。

では、私の言うとおりにしますか？

……よろしい。

あなたはもう家に帰ってよいです。

あなたが持っていた心臓の病は良くなります。

主があなたを癒されました。

……

主はこう言われました。

「もし、あなたが人々にあなたを信じさせ、

祈るときに心から真実であるなら、

あなたの祈りの前に立ちだかるものは何もない。」

私は言いました。

「人々は私を信じないでしょう。

私は無学ですし、うまく話すこともできません。

貧しい家庭に育ちましたし……。」

すると主は言われました。

「わたしがあなたと共にいる。

そして、人々に信じさせるために、二つのしるしを与える。」

さて、

それらのしるしは、人々に信じさせるためのものにすぎません。

それ自体が人を癒すものではありません。

癒すのは、その人自身の信仰です。

このことが分かる人は、手を上げてください。

ああ、それは素晴らしい。

さて、ここに一人の男性が立っています。

私は——私はまだ彼を見ていません。

彼を知りません。

しかし、私はこう言います。

背中を向けたままでこの人に言います。

ほんの二、三の体験だけお話しします。

ある日、部屋にいた時、私はマネージャーのところへ行って、こう言いました。

「部屋に座っていたら、サタンが私たちに向かって来る幻を見たんだ……」

[テープ一部欠落]

そして私は、

「およそ二十四時間以内、それくらいのうちに起こるだろう」

と伝えました。

——すると、そのとおりに起こったのです。

11 ある朝のことを覚えています。

朝の五時ごろに目が覚めました。その時、主が私を起こされたのです。

そしてこう言われました。

「服を着て、出て行きなさい。」

私は町へ下りて行き、およそ三マイルほど歩きました。

確か——あれはノルウェーだったか、スウェーデンだったか……

エルンシヨルツヴィクか、エレブルーだったと思います。

やがて、川のそばの一本の木の下に行き、

そこで朝の五時から九時まで、ずっと祈っていました。

ところが、九時ごろになっても、主は私を去らせてくださりませんでした。

「部屋に戻っても、私はいない。

皆がきつと不思議に思うだろう」

そう分かっているながらも、私は祈り続けていました。

その時、主の御声を聞いたのです。

「今、立ち上がりなさい。」

——私は、立ち上がりました。

12 これは、想像などではありません、友よ。

主の御声は、今あなたが私の声を聞いているのと同じほど、はっきりと聞こえるのです。

それは、ただ頭の中で思い描くようなものではありません。

主がそこに立たれる時、私は主を見、主が歩かれるのを見、

そして、あなたと私が話すように、主と語り合うのです。

それは「何か」ではありません。

お方です。存在です。

ただの想像ではありません。

主が足を下ろして歩かれる時、その足音さえ聞こえます。

主が語られる時、私が話すのと同じように語られるのです。

ああ……

その御声は、ある時は非常に柔和で、

またある時は、非常に厳粛です。

そのご性質は、どんな人間にも描き出すことはできません。

もし主がひとたび語られたなら、

世界はひっくり返るほどの力があります。

それでいて——

主を見つめると、あまりにも柔和で、へりくだっておられるので、

思わず涙がこぼれそうになるほどなのです。

13 すると主は、

これは正しいですね？

さて、ある人は、

「それは……心霊テレパシーではないのか」と考えるかもしれません。

悪魔がどのように騒ぎ立てるか、あなたがたは知っています。

彼らはイエスに対しても、

「彼は悪霊のかしら、ベルゼブルによって悪霊を追い出している」

と言いましたね？

そうです。

彼らは必ず何か理由を見つけようとするのです。

人々を見つめることについても、

「それは人の心を読んでいるのだ」と言われることがあります。

人々の目を見て、心を読んでいるのだ、と。

しかし、それは違います、友よ。

それは、その人の中にある霊に触れているのです。

分かりますか？

人は人間であり、

その人の信仰は、ある段階まで高められなければならないのです。

そうでなければ、解放されません。

ほら、霊は……

39 さあ、この秩序をよく聞いてください。

特に、奉仕者の方々。

今、ここです。よく聞いてください。

そして、あなたがこれまでしてきたことや、
そのようなことが、ここで聖霊によって示されたでしょう？

もしそうなら、会衆のために、手を上げてください。

あなたは、私とは全くの見知らぬ人ですね？

それでは、

神の賜物が、今、私たちのただ中に、天から下って来たと信じる人は、どれくらいいますか？

そのとおりです。

それは誤りのないものです。

決して失敗しません……。

あなたの癒しは、あなた自身の信仰によるものです。

しかし、神の賜物は完全です。

完全で、決して失敗しません。

失敗することができないのです。

なぜなら、それは神ご自身だからです。

ですから、

もし主があなたのすぐそばにおられて、

これほど近くで、あなたのことを知り、

約束されたとおりに、それらを示すことがおできになるなら——

主はこう言われました。

「わたしの行くこれらのわざを、あなたがたも行い、

さらに大きなわざを行うであらう。

わたしが父のみもとに行くからである。」

「立ち上がりなさい」

と言われました。

私は立ち上がり、歩き始めました。

およそ一マイルほど歩いたでしょうか。

前の日に見かけた店のそばを通っていました。

何をすればよいのか分からず、ただ歩いていました。

主はただ、

「歩きなさい」

と言われたからです。

「この角を回ってみよう」と思ったその時、

主は言われました。

「右へ曲がりなさい」

私は右へ曲がり、二つ目の区画まで行きました。

すると今度は、

「左へ曲がりなさい」

と言われたのです。

14 すると、ほんの一瞬のうちに、私は前の晩の通訳者の姿を見ました。

その時、私は分かりました。何かが起こる、と。

彼は、だんだんこちらへ近づいて来ました。

「今すぐだな」と、私は悟っていました。

彼は私のところへ来て、手を握り、こう言いました。

「ブラナム兄弟、実に不思議なことがあるんです。」

私は言いました。

「ちょっと待ってください。」

そして、彼に語り始めました。

彼が私を見たその時、

私は幻の中で、前の晩、彼が通訳していた時の場面を見ました。

そこで私は言いました。

「あなたは、病院から来たばかりですね。」

彼は言いました。

「はい、そうです。」

私は言いました。

「あなたは腎臓を一つ切除していますね。」

彼は言いました。

「そのとおりです。」

私は彼と会ったのは、前の日が初めてでした。

それも、前の晩、演壇の上で見ただけです。

私は続けました。

「三、四年前、あなたは何かをするように言われていましたが、それをしなかったですね。」

「違いますか。」

彼は言いました。

「そのとおりです。」

私は言いました。

「その後、あなたは手術を受けました。そして、その後、病気はもう一つの腎

私たちは、この姉妹に憐れみを与え、

彼女を癒してくださるよう祈ります。

主よ、彼女は神経が弱り、疲れ切っています。

この世の多くの思い煩いを抱えてきました。

愛する神よ、

私は今、あなたが今夜、彼女を癒してくださるよう祈ります。

あなたの御名によって彼女を祝福し、

イエス・キリスト、あなたの御子によって、

完全に癒されることを信頼します。

アーメン。

神の祝福がありますように、姉妹。

もう何も疑ってはいけません。

心から信じなさい……。

よろしい。

では、次の方に進みましょう。

38 こんにちは、兄弟。

こちらの兄弟は、たった今、癒された方です。

ほんの一瞬のことでした……。

そうです、あなたです。

私があなたのために祈っていたとき、

ひんやりとした感覚が、体を通り抜けたのを感じたでしょう？

それで正しいですね？

ええ、まだ小さな女の子だった頃、
 学校に行っていた頃から、その症状がありました。
 私はそれを見えています。
 今、信じますか？
 ええ、あなたの神経の状態から来て、
 あなたの腺にも影響が出ています……
 [※ここでブラナム兄弟が姉妹に聞き取れない声で語る]
 今、心から信じますか？
 では、その手を上げてください。
 さあ、姉妹。
 私は、あなたが神経質で、
 そして一生懸命信じようとしていることを理解しています。
 だから、見続けなさい。
 頭を動かさないでください。
 そうすると、私から幻が切れてしまいます。
 今、信じますか？
 あなたが信じるなら、
 私は主にお願ひしましょう。
 その神経の問題が、あなたから去るように。
 そのとおりです。
 では今、頭を垂れて、静かに信頼しなさい。
 天の父なる神よ。

臓に移りましたね。
 そうでしょう？」
 彼は言いました。
 「そのとおりです。」
 私はさらに言いました。
 「昨夜、会衆祈禱の時、あなたはこうして、そっと私の上着をつかみま
 したね。」
 すると彼は、泣き出しました。
 両手を天に挙げ、涙を流しながら言いました。
 「そのとおりです、ブラナム兄弟。
 そして私は昨夜、もしそれが本当なら、神が確証してくださるようにと祈
 りました。
 すると、約三十分ほど前に、神は私に『起きて通りへ出なさい』と言われた
 のです。」
 もし、ほんの一瞬でも遅れていたら、
 私は彼とすれ違っていたでしょう。
 しかし、そこで——
 彼の癒しは確証されたのです。
 ああ、神は、実に不思議な道を通って働かれるお方です。
 15 それから私は、ムーア兄弟やリンゼイ兄弟たちと合流しました。
 私たちは町の中心部へ行きました。
 御霊の油注ぎがまだ続いていたので、彼は私を少し歩かせてくれたので
 す。
 そういう時、私はじっとしていません。ですから、よくそのまま歩き続け

るのです。

私たちはダウンタウンへ行き、ショーウィンドウの前に立って中を眺めていました。

その時、私は言いました。

「ムーア兄弟。」

彼は言いました。

「何ですか。」

私は言いました。

「今から戻る途中で、黒っぽいスーツを着て、明るい色の帽子をかぶった男が、建物の中から出て来て、私に『妻のために祈ってほしい』と頼みます。

でも、私はそれをしないでしよう。」

彼は言いました。

「それは、いつ起こるんですか。」

私は言いました。

「今朝のうちです。

なぜなら、その幻が来たのは、同じ今朝だったからです。」

それから三十分ほど歩いたでしょうか。

角を曲がったその時——

店の中から一人の男が出て来ました。

黒いスーツを着て、灰色の帽子をかぶっていました。

彼は帽子を取って言いました。

「ブラナム兄弟、お会いできて本当にうれしいです。

妻がこの上にいるんです。」

神よ、

尊い主の御使いよ、

今すぐ、聖霊で満たしてください。

彼ら一人ひとりと共に行ってください。

私は祈ります……

どうか、それを成し遂げてください、主よ。

主を信じなさい……

37 神の祝福がありますように、姉妹。

あなたは悩んでおられますね。しかし、私は……

ええ、あなたは——あなたは——今、信じようとしておられる。

こんにちは、姉妹。

少しの間、その手を見せてください。

こちらを見てください、姉妹。

あなたは、自分の中にたくさん問題があると感じておられます。

しかし、そのすべての原因になっている一つの主な問題があります。

それは神経の問題です。

あなたはとても神経質ですね。

しかも、長い間ずっとそうでしたね。

あなたの目には乱視があります。

涙が出にくいでしょうか？

それは正しいですね。

あなたが子どもの頃から、そうでした。

それでは皆さん、

「主をほめたたえよ」と言いましょう。

皆さん、どうか深い敬虔さをもって。

次の方をお連れください。

会衆の皆さん、引き続き静まり、祈っててください。

ありがとうございます、兄弟。

36 ここに立っているすべての人、

今ここにいるすべての人は、

そばに立っている人に手を置きなさい。

隣に立っている人に手を伸ばしなさい。

互いに按手しなさい。

さあ、神はこれをなさいます。

私はそれを知っています。

ああ……。

さあ、見てください、皆さん。

互いに手を置いています。

年老いた母親が、小さな赤ちゃんに手を置いている。

年老いた父親が、母親に手を置いている。

ああ、そこにあります。

それです。私が語っていたのは、これです。

さあ、受け取りなさい、皆さん。

そこにあります。

それを見て、ムーア兄弟——ジャック兄弟は言いました。

「どうですか、今のは。」

——私たちは、そのまま中へ入って行きました。

16 次はバクスター兄弟——次のマネージャーの時のことです。

その日の午後、私たちは町を歩いていて、通りに立っていました。

私は言いました。

「バクスター兄弟、黒い服を着た二人の女性が、店から出て来て、まもなく私たちを呼び止めます。」

それから二つほど区画を進み、

私はネクタイを眺めて、ある紳士服店のウィンドウを見ていました。

するとその同じ店から、黒い服を着た二人の女性が出て来て、

私たちのところへ走って来て、手を取り始めたのです。

彼女たちは英語が話せませんでした。

しかし、自分たちの手に何が起きているのか、

その霊的な識別を求めていたのです。

バクスター兄弟は——

(……)

——さて、こういうことは、実はいつも起きているのです。

けれども、友よ、私はそれが益となる時、助けになる時でなければ、

口にしないのです。

17 さて、クリスチャンが祈っている時に、このようなことがよく起こります。

昨夜、ここに小さな赤ちゃんを連れた女性が座っておられました。

昨夜ここにおられた方なら、私がおその赤ちゃんを連れた女性を探していた

のを覚えておられるでしょう。

彼女はそのことで、ずっと祈っておられました。

そして部屋の中で、私は彼女の姿を幻の中で見たのです。

どんな服だったかまでは、はっきり分かりませんでした。

金髪で、髪を編んでいて、小さな赤ちゃんを抱いているのが見えました。

そして主は、その赤ちゃんが癒されることを示されました。

実際に――

昨夜、その赤ちゃんは建物を出る前に癒されたのです。

ああ、なんとすばらしいことでしょう。

18 つい最近、フォート・ウェインで集会をしていました。

ここにおられる方で、あのフォート・ウェインの集会に来られた方はいますか。

どうでしょう……。

ええ、二、三人の方が手を挙げておられますね。フォート・ウェインの集会に来られていました。

実にすばらしい群衆が集まりました。

B・E・レディガー――この名前を聞いたことのある方はどれくらいおられますか。

ずいぶん前のことですが。

ポール・レーダーは、あの集会の中で

「Only Believe(ただ信じよ)」という賛美歌を書きました。

さて、そのレディガー氏には娘さんたちがいました。

彼はもう、かなり前に栄光のうちに召されましたが、

神の癒し(Divine Healing)について、当時この国で最も著名な人物の

今、信仰がありますね？

祈り

父なる神よ。

あなたの娘が、ここに立っています。

不安に満ち、心をかき乱されています。

彼女は、自分が何か間違ったことをしたのではないかと感じています。

今、どうかあなたの慰めを与えてください。

私は、あなたの御子イエスの御名によって、

彼女の上に手を置きます。

この喉の神経的な苦しみが、今、去りますように。

彼女が愛する家族のもとへ、健康で元気に帰ることができますように。

サタンよ、この娘から離れよ。

イエス・キリストの御名によって。

さあ、姉妹、顔を上げてください。

……今のことは、真実でしたか。

――すべて、その通りですね。

では、私が言ったとおりにしなさい。

すべてを忘れなさい。

家に帰り、食べ、飲み、喜び、

主を賛美しなさい。

あなたの癒しを、みんなに証しし、神に栄光を帰しなさい。

神があなたを祝福されます。

これは、あなたの霊が触れ合った時に起こるものです。
 今、私自身も力が抜けてくるのを感じています。
 これは、しばしば幻が始まる直前に起こることです。
 ……ええ、あなたは心配しています。
 がんだと言われたことがありますね。
 その通りでしょう。
 どうか、静まり、恐れなくてください。
 信じなさい。
 ……しかし、医者是最初にそれを告げたわけではありませんね。
 ある人が、あなたに「がんだ」と言った。
 それは祈祷の列の中でのことでした。
 その後、医師のもとを訪れた時、
 医師は「がんではない」と言いましたね。
 私は今、暗い色のスーツを着た男性を見えています。
 普通の身なりをした人です。
 彼が何かを語っています。
 あなたの問題は、喉ですね。
 そうです、喉です。
 原因は神経の問題です、姉妹。
 喉に来る神経的な症状なのです。
 あなたは大丈夫です。
 イエス・キリストがあなたを癒されます。

一人でした。
 19 私はちょうど、フロリダ州ペンサコーラから戻って来たばかりでした。
 そこで私は、これまでで**最大の招き(アルター・コール)**を経験しました。
 一度の招きで、二千人が同時にキリストに心をささげたのです。
 たった一回の招きで、です。
 そして家に戻り、その朝、小さな教会に入りました。
 教会の周りには、何百人もの人々がぎっしり集まっていました。
 人々は私を中へ入れようとしていました。
 その時、誰かが私にこう言いました。
 「教会の石炭置き場の奥に、若い女性が横たわっています。精神的に重い状態です……。
 レディガー夫人です。」
 私は言いました。
 「レディガー夫人？」
 B・E・レディガーとは、どんな関係ですか。」
 すると、こう答えられました。
 「彼の娘さんです。」
 20 そして、B・E・レディガー——神の戦士として戦い抜き、今は栄光のうちに憩っているその人の娘が精神を病んでいる、という現実がそこにありました。
 もう一人の娘さんも、同じ状態で亡くなっていたのです。
 その娘さんは、約二年間、施設に入っている精神疾患の患者でした。
 そこに彼女がいました。
 母親が必死に押さえていました。

美しい若い女性で、髪はほどけ、後ろに座り込み、
目は一点を見つめたまま、ただじっとしていました。
私は彼女のところへ近づきました。
すると彼女は、後ずさりしながら、
口をもごもごと動かし、
「ペニー……」とか、何か分からないことをつぶやきながら、
そうして後ろへ下がっていったのです。
その時、レディガー夫人が顔を上げました。
私は言いました。
「ああ……この方が、レディガー兄弟の娘さんですか。」
「そうです。」と答えが返ってきました。
私は祈りました。
「主イエスよ、この娘をあわれんでください。」
そして、敵の力がこの娘から去るようにと祈り求めました。
——すると、その瞬間、彼女は正気に戻ったのです。
そして今日、一通の手紙を受け取りました。
彼女は8月に結婚するというのです。
精神病院から完全に出て——
なんと栄光に満ちたことでしょう。
ああ、主の導きを見いだすことができるとは、何とすばらしいことでしょう。

21 フォート・ウェインでは、私が泊まっているホテル——インディアナ・ホテル——が知られてしまい、
人々がロビーに押し寄せて、身動きが取れなくなるほどでした。

しかし、何か問題があるからこそ、ここに来ておられるのですね。
でなければ、ここにはおられなかったはずです。
少しだけ、あなたの手をお借りしましょう。
……手が見つかりませんね。
では、ほんの少しお話ししましょう。
あなたは神を信じていますか。
——はい、信じていますね。
では、神がキリストにおいて世をご自身と和解させておられたことを信じますか。
そして、キリストの内にあつたその御霊が、聖霊として再び地上に戻り、
今日、教会の中に住んでおられることを信じますか。
教会に与えられた九つの霊的賜物を信じますか。
さて、あなたは私にとって全くの他人です。
私はあなたのことを何一つ知りません。
ですから、もし私があるあなたの問題を知るとすれば、
それは霊的なお方によって示される以外に、方法はありません。
……あなたは不安を抱えていますね。
よく気を失うことがあるでしょう、姉妹。
——今、私はあなたの心を読んでいるわけではありません。
今、会衆の皆さんのために確認しましょう。
とても不思議な感覚が、今あなたの上に来ていますね。
それが本当なら、手を挙げてください。
——そうですね。

信じますか？

——はい、結構です。

それでは、皆さん、深い敬虔さをもって、祈ってください。

ああ……今のこの感覚を、皆さんにも味わってほしい。

何とも言えない平安。

まるで、体がとても軽くなったような感じです。

聖霊が、この建物の中におられます。

その臨在と助けが……

[テープ一部欠落]

さて、私は言うておきます。

私は、ここにいる皆さんのうち、誰一人として知りません。

私の知る限り、顔見知りは一人もいません。

あなたに何が起きているのか、私は知りません。神はご存じです。

私は、あなたの病について、一つとして知っていることはありません。

だから私は、ただ主に頼るしかないのです。

ですから、クリスチャンの皆さん、

私と一緒に祈ってください。

35 こんばんは。では少しの間だけ……私自身が落ち着いて、あなたと少しお話しできるまで、ほんのひととき。

あなたは私にとって見知らぬ方ですし、私もあなたにとって見知らぬ者です。

私はあなたに会ったことがありませんし、あなたも私を見たことはないでしょう。

見たところ、あなたは健康で元気そうに見えます。

そこで私たちは、ベルボーイを一人雇って、外へ出る道を確保してもらわなければなりませんでした。

裏道を通り、灰の山を越えて、やっと何か食べに行く、そんな状態だったのです。

それほど多くの人が集まり、押し合っていました。

そんなある日、私たちは通りを歩いていました。

妻と一緒に、赤ん坊を抱いていました。

私はコートの襟を立て、小さな娘を抱えて歩いていました。

私たちは、確か——名前はトッドル・ハウスだったか、ホブル・ハウスだったか……

とにかく、いつも食事をしてた場所へ向かっていたのです。

そこは、カナダから来たイトン氏と関わりがあった場所でもありました。

彼はその朝、ある部屋で私と会い、胃の病を癒されるために集会に来ていた人です。

そして数日後、神は彼を幕屋で完全に癒されました。

その朝、彼は私が食事をしている場所には来ませんでした。

ただ——

私の朝食代を、そっと支払って行ったのです。

22 翌朝、通りを歩いていると、何かがこう言いました。

「左へ曲がりなさい。」

それが、モーガン夫人でした。

21年の経験を持つ正看護師で、彼女は私が初めて向き合ったガンの症例でした。

私はその時、あの振動を感じたのです。

彼女は体重わずか37ポンド(約17キロ)。

集会には、皮と骨だけの状態で運び込まれて来ました。

しかし今では、155ポンド(約70キロ)、完全な健康体です。

当時、国内でも最も優秀とされる医師たちが、

「余命は数日」と告げていました。

ガンは全身に広がり、

開腹したものの、手の施しようがなく、そのまま縫い閉じるしかなかったのです。

悪性で、メスを入れることすらできず、

誰も手術できなかった——それほどでした。

ところが今、

彼女は157ポンド(約71キロ)、

完全な健康のうちに生きているのです。

23 彼女は、とても優秀な女性でしたから、時々、病人のことで私を助けてくれていました。

そして私たちが歩いていると——

それ(主)が言いました。

「左へ曲がりなさい。」

私は、今あなたが私の声を聞いているのとまったく同じはつきりさで、それを聞きました。

私は左へ曲がりました。

するとマーギーが私の妻に言いました。

「どうしたの？」

妻は言いました。

主よ、これを成してください。

そして、人々がこれらのことを目にするとき、

その瞬間に、あなたを受け入れますように。

あなたの御子イエスの御名によって。

アーメン。

34 どういうわけか……私はただ、大きなことが起こると信じているのです。

皆さんも、そう信じていませんか。

考えてみてください。

モーセは、イスラエルの子らの前で、一度しるしを行っただけで、彼らは皆、彼を信じました。

そうでしょう。

彼は二度目に手を懐へ入れて、もう一度しるしを見せる必要はありませんでした。

杖をもう一度、蛇に変える必要もありませんでした。

——彼らは、信じたのです。

ですから、主がしるしとして与えられたことが、一つでも証明されるなら、

それを受け入れるべきなのです。

覚えておいてください。

今、この壇上で癒しが行われている間にも、

同時に、あちらでも癒しは行われ得るのです。

ここへ上がって来ることを心配しないでください。

今いるその場所で、主を受け入れなさい。

そうすれば、神は、あなたが今座っているその場所で、あなたを癒してくださいます。

そればかりか、さらに大きなことをする。」
あなたは、すべての人の心をご存じでした。
すべての病を知っておられました。
あなたは、ピリポに、
祈りの列に来る前、彼がどこにいたかを告げられました。
馬がつながれている場所を告げ、
最後の晩餐のために整えられた部屋の場所を告げ、
あの女には、その罪を言い当てられました。
それなのに、ある日、
人々はあなたの目に布を巻き、
ひげを引き抜き、唾を吐きかけて言いました。
「さあ、預言してみろ。
誰があなたを打ったのか言ってみろ。」
しかし主よ、
あなたは一言も口を開かれませんでした。
私たちは感謝します。
あなたのそのすばらしいご生涯を。
そして、私たちが生きるために与えられた、
その御霊を。
今、私たちを助けてください。
今夜、この場を歩いていくすべての病が癒され、
大いなる幻と不思議なみわざが行われますように。

「いいの、そのまま行かせてあげて。」
私はそのまま歩きました。
左へ行くと、ミラーズ・カフェテリアという場所の前で立ち止まりました。
「なぜだろう?」と思ったその時、
また声がしました。
「ここに入りなさい。」
私はカフェテリアに入り、
簡単な朝食——プルーンなどを取って、座りました。
妻は言いました。
「こんな大きな場所に入ったら、捕まってしまうわよ。」
案の定、人々が周りに集まり始めました。
食事を始め、祝福を祈ったその時、
誰かがこう言うのが聞こえました。
「主をほめたたえます!」
私は顔を上げると、
貧しそうな年老いた母親が立ち上がり、目をぬぐっていました。
マーギーが言いました。
「行った方がいいわ。このままだと、みんなが……」
私は言いました。
「ちよっと待って。これは聖霊の導きだ。」
その女性は近づいて来て言いました。
「ブラナム兄弟。」

私は、兄を祈祷の列に入れようとして、集会から集会へと回りました。でも、できなかったのです。

兄の心臓はあまりにも悪くなって、横隔膜を押し上げるほどになっています。

数日前、ここに来る前に検査を受けましたが、医師は

『もう長くはない』と言いました。

私たちはテキサスから来るために、牛を売ってお金を作りました。

いくつもの集会に行きました。

持っているものは、すべて売りました。

祈祷カードも何度も持ちましたが、番号は一度も呼ばれなかったのです。」

そして彼女は続けました。

「昨夜は一晩中祈り、断食していました。

夜明けごろ眠りにつき、夢を見ました。

その夢で、

『朝九時に、このカフェテリアへ来て待ちなさい』

と言われたのです。」

私は時計を見ました。

ちょうど九時でした。

私は言いました。

「兄弟を、ここへ連れて来なさい。」

——その後、何が起こったか、皆さんはご存じでしょう。

主は、その人を驚くべき方法で癒されました。

御霊の導きです。

心を尽くして主に仕えましょう。

33 それでは、会衆の方々が整列している間、もう一度、しばし祈りましょう。

父なる神よ、今、近くに来てください。

イエスよ、私たちと共にとどまってください。

今夜、私たちを祝福してください。

ここには、切なる思いで待ち望んでいる人々がいます。

そして今夜は、どういうわけか、

いつもよりも特別な祝福が私たちの上にあるように感じられます。

もしかすると、あなたは今にも、

御霊を注ぎ出そうとしておられるのかもしれませんが。

父よ、どうか、そうなりますように。

今、すべての人を癒してください。

私の誕生の時にあなたが遣わし、

あなたの御手によって生涯を通して導いてくださった

神の御使い——

私と出会い、語り、

私が語ってきたあの幻を示してくださるお方よ。

主イエスよ、今、あなたの御名によってその御使いを遣わしてください。

それは、識別の賜物が働き、

人の心を知るためです。

あなたは言われました。

「わたしのしていることを、あなたがたもする。

今夜、その御霊が私たちと共に動いておられます。

どうか人々が、聖霊という形で、やさしくそれを受け入れ、今夜、救われ、癒されますように。

これらすべてを、

あなたの御子、イエスの御名によって祈り求めます。

アーメン。

32 ええ、そうです。

それは……私はあまり感情的なタイプの人間ではないのですが、

今夜ここに来てから、理由は分かりませんが、心が不思議に温められているのを感じています。

なぜなのかは分かりません。

けれども、今夜、神が御霊をこの会衆全体の上に注いでくださることを、私は信じています。

そして明日には、この小さな場所の周りが、神の輝く光で満たされることを祈っています。

ああ、人々よ——

断食して祈り、備えなさい。

イエスは、まもなく来られます。

私はそれを信じています。

備えなさい。

もし全世界を手に入れても、自分の魂を失ったら、何の益があるでしょうか。

——何の益もありません。

だからこそ、

神は、両方の側で働かれるのです。

24 それから——

私はもう外へ出ようとしていました。

ドアを出て、ほんの二分ほど経ったでしょうか。

結局、食事もしていませんでした。

すると、ちょうどドアを出た瞬間、

黒い服を着た若い女性が通りで倒れ、叫び始めたのです。

彼女はシカゴ・ハイツに住んでいました。

悪性のがんでした。

彼女は言いました。

「ブラナム兄弟、ここに来られるように、何週間も祈ってきました。

もう、残された時間はわずかだと言われています。」

彼女はここにあるクリニックにも行きましたが、

何もできないと言われたそうです。

ご主人は、当地でかなり名の知れた実業家でした。

そして彼女は言いました。

「今朝早く、何かが私に、

『ミラーズ・カフェテリアに行って、9時10分にそこに立ちなさい』

と言ったのです。」

——そこに、その通りのことが起こったのです。

数週間前、私はここリトルロックで、

その彼女に再会しました。

彼女は神を賛美しながら喜び叫び、
完全に正常で、完全に健康だったのです。

25 それから通りを歩いていると、聖霊が言われました。

「ここで止まりなさい。」

私は妻に言いました。

「君たちは先に行って。ホテルに入れてもらえるだろうから。」

妻は言いました。

「じゃあ、向こうのドラッグストアを渡って、塗り絵の本を買って来るわ。」

赤ちゃんを一日中部屋に置いておかなければならなかったのです。

私はその場に止まり、少し戻って釣り道具を眺め、しばらく待ちました。

そして祈りました。

「父よ、あなたは私に何をさせたいのですか。」

しばらく待つと、あの御声がしました。

「角まで行きなさい。」

角へ行くと、

「通りを渡りなさい。」

私は通りを渡り、そこに立ちました。

フォート・ウェインの方ならご存じでしょう、

あの町の交通整理の仕方を。

土曜の朝で、私はしばらくそこに立っていました。

しばらくすると、一人の女性が通りを渡って来るのが見えました。

警官の笛が何度も鳴っていました。

そして私たちは、霊的な実感をもって、あなたの臨在を感じています。
あなたがここにおられることを、私たちは知っています。

父よ、私はこの人々の前で、神からの賜物について証ししてきました。

あなたが語られなければ、彼らは私の言葉だけを持つことになります。

しかし主よ、あなたが語ってくださることを私は知っています。

あなたはそれを立証し、証ししてくださるでしょう。

すべての賛美と栄光は、あなたにあります。

驚くべき神の御子よ。

私たちのような、

死と断絶に値し、地獄に値する、

失われた哀れな罪人を、

あなたは贖ってくださいました。

ああ、自分が贖われていることを思うと、

私の心は喜びで躍ります。

あなたが墓からよみがえられたのと同じように、

いつの日か、病も苦しみもない、新しい体をもって、私たちもよみがえるのです。

今、愛する神よ、

ここにいるすべての人々を祝福してください。

どうか、聖霊が今、この会衆の上を覆うように動いてください。

一人ひとりに語りかけてください。

「これは、わたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」と。

ナザレのイエス、神の御子。

って導いてくださいます。

神よ、今夜は土曜の夜です。

多くの人々は買い物に出かけ、外に出歩き、

酒場や不品行の場所におり、

若い男たちは酒場の床に倒れ、

若い女たちは間違った道を選び、

キリストなき墓へと踊りながら進んでいます。

その上を覆うように、年老いた母たちの祈りがあるというのに……。

ああ、主よ、どうか、その人々を導いてください。

今夜、彼らに語りかけ、

明日、昔ながらの祭壇の前に出て、

あなたのしもべとなる場所を見いださせてください。

主よ、この集会の実りが、

都市を、そして国を貫いて広がる、昔ながらのリバイバルとなりますように。

私たちは信じています。

あなたがまもなくイエスを遣わされることを。

どうか、私たちを集めてください。

父よ、今夜ここには、病んでいる者、必要を抱えた者が多くいます。

彼らは今、あなたの御霊を感じています。

私たちは皆、あなたがここにおられることを知っています。

あなたは言われました。

「二人、三人がわたしの名によって集まるところに、わたしはその中にいる。」

彼女は腕にハンドバッグをかけ、

チェック柄のスーツに、同じ柄の小さな帽子をかぶっていました。

すると聖霊が言われました。

「彼女に近づきなさい。」

私は近くに立ちました。

(もしかすると、今夜この集会に来ておられるかもしれません。)

私は角に立ったままでした。

彼女はそのまま通り過ぎて行きました。

私は思いました。

「おかしいな。主は、決して間違ったことを言われたことはないのに。」

彼女は、あの柱くらいの距離まで歩いて行き、

下を見たり、横を見たりしていました。

すると彼女は振り返って、私を見て言いました。

「ああ、ブラナム兄弟。」

そして戻って来て、泣き始めたのです。

彼女は言いました。

「私はカナダから来ました。

カナダ中を追いかけて来ました。

ここへ来るのに、持てるお金は限られていました。

昨夜は、ホテルのロビーで座ったまま眠りました。

今朝は、コーヒー一杯のための5セントしかなかったのです。」

「これからヒッチハイクで帰ろうとしていました。」

すると、二つ下の区画に来た時、
 聖霊が『右へ曲がりなさい』と言われました。
 私は右へ曲がりました。
 すると『左へ曲がりなさい』と言われました。
 そして、『振り返って見なさい』と言われたのです。」
 彼女は続けました。
 「ブラナム兄弟、私の手は不自由なんです。」
 私は言いました。
 「主イエス・キリストの御名によって、その手を私に差し出さなさい。」
 すると——
 その手は、まっすぐに伸びてきました。
 その時、大きなアイルランド系の警官が笛を吹きながら言いました。
 「あなたが誰だか分かってますよ、ブラナム兄弟。」
 まあ——
 あっという間に、通りの上で祈祷の列ができました。
 あちらでも、こちらでも、至るところです。
 これは何でしょうか。
 神の御霊に導かれている——それだけのことで、友よ。

26 最近、ダラスへ向かう途中のことです(急ぎますね)。
 ダラスへ行く途中、飛行機が欠航になってしまいました。
 「ああ、これは困ったな」と思いました。
 その夜は足止めされ、一晩泊まり、翌朝、

ここが明るくなってきたよ、ママ。
 僕の舟がどこへ行くのか、見えるよ。」
 それから数分もしないうちに、
 彼は床の上で喜び踊り、歓喜していました。
 約一週間後、彼から手紙が届きました。
 医師たちは、すべて陰性だと宣告したというのです。
 彼は今夜も、テネシー州メンフィスで、元気に、力強く生きています。
 なぜでしょうか。
 それは、あの愛する年老いた母親が、聖霊の導きに従ったからです。
 神の息子、神の娘である者は、神の御霊に導かれる。
 ——そうではありませんか。

31 それでは、頭を垂れて祈りましょう。

天の父なる神よ。

ああ、あなたは、なんと私たちに良くしてくださったことでしょう。

イエスのことを語り、その驚くべきみわざを語っていると、時はあまりにも早く過ぎ去ってしまいます。

主は言われました。

「しばらくすると、世はもはや私を見ることがない。」

世は理解しません。この世の神に目をくらまされ、暗闇の中を、自分勝手な道、自分の罪深い欲望のままに歩いているからです。

しかし私たちは感謝します。あなたはこう言われました。

「わたしは世の終わりまで、あなたがたと共におり、あなたがたの内にいる。」

今夜、主よ、誠実な心を見いだすところにはどこへでも、あなたは御霊によ

その祈りを聞けば、
 この人が本当に神と語っていることが、誰にでも分かる——
 そんな祈りでした。
 そして祈り終わると、
 彼女は静かに、こう言いました。
 「ありがとう、愛する主よ。」

30 私は彼のそばへ行き、少しの間その顔を見つめ、彼の上に手を置きました。
 そして祈りました。
 「愛する神よ、なぜあなたが私をここへ導かれたのか、私には分かりません。」

私の飛行機は、もう出発の準備ができています。
 それでも、私は御霊の導きに従って、ここへ来ました。
 今、あなたの御子イエスの御名によって、
 この死にかけている若者の上に手を置き、
 その命のため、そして魂が救われるために祈ります。」

すると彼が言いました。
 「ママ……ああ、ママ。」

母親が言いました。
 「牧師さん、話している！」

——二日間、まったく話せなかったのです。
 彼は言いました。
 「ママ、明るくなってきた。」

「迎えが来るから」と言われて、郵便物をポストに入れに通りに出ました。
 通りを歩きながら、私はペンテコステの人たちがよく歌う、
 あの古い賛美歌を口ずさもうとしていました。
 ——

♪ Glad that I can say I'm one of them
 (「私は彼らの一人だと言えることがうれしい」)

聞いたことがありますか？

People almost everywhere,
 Hearts all burning with flames,
 As the fire that fell on…
 The Holy Ghost,
 That makes us all the same
 (…そんな歌詞でした)

手紙を手に持ち、通りを歩きながら、
 その歌を口ずさんでいました。
 通りを渡ろうとしたその時、
 聖霊が言われました。
 「止まりなさい。あなたは銀行の真ん前にいる。」
 (場所はテネシー州メンフィスでした)

私は思いました。
 「ああ、これは何だろう？」

私は角の方へ歩き、祈りました。

「父よ、あなたは私に何をさせたいのですか。」

しばらくじっと立っていました。

特に何も考えていなかったのですが、

あの不思議な感覚が私の上に動いて来て、

こう言われました。

「向きを変えて、元来た道に戻りなさい。」

私はそのまま、ホテルの前を再び通り過ぎ、

ただ歩き続けました。

口ずさみながら——

Oh, I'm so glad that I can say I'm one of them ♪

そして、気がつくと、

メンフィスの反対側、

黒人地区の方まで来ていました。

私は思いました。

「私は、いったいここで何をしているんだろう？」

——ただ、御霊に導かれているだけでした。

すると、

「こちらへ渡りなさい。」

と言われ、通りを渡り、反対側を歩きました。

右へ曲がり、通りを上って行くと、

そこには白く塗られた小さな家々、

黒人の人たちが住む小さな家並みが続いていた。

「ママの坊や。」

——もう十分大人の年齢でしたが、

でも、ご存じでしょう。

母の愛というものは、そういうものです。

どんなに年を取っても、

あなたはいつまでも“ママの赤ちゃん”なのです。

何をしても、決して忘れられない——それが母の愛です。

彼女はもう一度、彼の頬をなでて言いました。

「ママの坊や。」

私は彼の足をつかみました。

すると、足が冷たかったのです。

私は思いました。

「ああ……彼は今、死にかけている。」

私は言いました。

「おばさん、この子はとても悪い状態です。」

彼女は答えました。

「はい、牧師さん。医者も、もう二度と意識は戻らないと言いました。」

私は彼の足を握ったまま言いました。

「一緒に祈りましょうか。」

彼女は言いました。

「はい、牧師さん。」

彼女は床にひざまずき、祈り始めました。

そして、あなたが通りを歩いて来られた時、
この方が牧師だと分かったんです。」
私は言いました。
「私の名前はブランナムです。」
すると彼女も、自分の名前を教えてくださいました。
私は尋ねました。
「私の集会のことを聞いたことがありますか？」
彼女は答えました。
「いいえ、牧師さん。知りません。」
そこで私は、
主がなさってきた働きのことを、彼女に話しました。
すると、彼女の頬を涙が伝い落ち始めました。
そして彼女は言いました。
「私は知っていました。
主は、決して私を失望させるお方ではないって。」

29 私たちは部屋に入りました。
そこには、立派な体格の若者が横たわっていました。
体重は160～170ポンドほどでしょうか、
見るからに健康そうな体つきでしたが、
毛布をぎゅっと握りしめたまま、
「うーん、うーん」と、うめくような声を出していました。
彼女は近づいて、彼の頬をそっとなでながら言いました。

27 そして私は、そのまま通り過ぎました。
すると——
典型的な年老いた黒人のおばあさんが目に入りました。
頭には男物のシャツを巻き、門にもたれかかって立っていました。
朝日が昇り、
門のそばにはバラが咲き、
太陽がその香りをやさしく包み込み、
空気は満ち、鳥たちはさえずっていました。
ああ、なんと栄光に満ちた朝だったでしょう。
私は手を振りながら、
御霊に導かれつつ賛美を口ずさみ、彼女の前を通りました。
すると彼女が言いました。
「おはようございます、パーソン(牧師さん)。」
南部では「牧師」をそう呼ぶんです。
私は言いました。
「おはよう、おばさん。」
彼女は涙をぬぐい、笑い出しました。
私は言いました。
「どうして私が牧師だと分かったんですか？
私のこと、知っているんですか？」
彼女は言いました。
「いいえ、知りません。」

私はまた尋ねました。

「それなら、どうして牧師だと分かったんですか？」

彼女は言いました。

「牧師さん、聖書に出てくるシュネムの女の事をご存じですか？」

私は答えました。

「ええ、知っています。」

彼女は続けました。

「主が、あの女に子どもをお与えになったでしょう？」

「はい。」

すると彼女は言いました。

「私も、子どもを産めなかった女でした。

でも、主は私に息子をくださいました。

だから私は、『この子を主のために育てます』と約束したんです。」

「私は精一杯やりました。

でも牧師さん、あの子は間違った道に行ってしまいました。

本当は良い若者なのに、信仰から離れ、

悪い仲間と付き合いようになってしまうんです。」

そして彼女は言いました。

「今、その子は家の中に横たわっています。

医者は、できる限りの注射はすべて打ったと言いました。

もう二日間、意識がありません。

医者は『もう助からない』と言いました。

病気は性病で、見つかった時には手遅れだったそうです。」

彼女は声を震わせて言いました。

「牧師さん、信仰から離れたまま死んでいく我が子を見るなんて、

私は耐えられませんでした。」

「私は祈り、祈り続けました。

そして言ったんです。

『主よ、あなたは私にこの子をくださいました。

でも、今、エリヤはどこにいるのですか？』と。」

「それで、私はずっと祈りました。」

そして彼女は言いました。

「今朝、夜が明ける少し前に、

主が私に『ここへ出て来て、この門のところに立ちなさい』と言われたんです。」

彼女の背中、朝露で濡れていました。

そして彼女は、静かにこう言いました。

「私はただ、ここに立っていました。

私は、御霊の導きを信じているからです。」

28 ああ、なんと——

ここにこそ、神と信じる者とが、信仰という共通の土台の上で出会う場所があります。

彼女は言いました。

「主が、ここに立ちなさいと言われたんです。

太陽が昇ってきても、私はただ待ち続けました。